



小島 祥敬 先生

岐阜県各務原市出身。名古屋市立大学医学部卒業。2008(平成20)年米國ペンシルバニア大学留学。2012(平成24)年より福島県立医科大学医学部泌尿器科学講座教授。日本泌尿器科学会指導医・専門医。

前立腺がん検診

2017年以降、わが国の前立腺がんの罹患数は、男性のがんの中で第1位です。全前立腺がん患者さんのうち、他臓器

へは、転移のある状態で見つかった前立腺がん患者さんの割合は、前立腺がん検診の先進国である米国では1995年以降、約5%で推移しています。が、わが国では約20%と高く、その理由として前立腺がん検診の受診率が低いことを指摘する声も

あります。前立腺がんは、転移のない状態で見つかった場合の5年生存率はほぼ100%に對して、転移のある状態で見つかった場合の5年生存率は約60%です。したがって、検診による早期発見が重要です。

前立腺がん検診は、血液検査により「前立腺特異抗原(PSA)」を測定することで行うことができます。基準値を超える

場合(一般的には4ng/ml以上)は、お近くの病院やクリニックの泌尿器科を受診していただき、もし前立腺がんが疑われるようであれば、精密検査(前立腺針生検)を受けられることをお勧めします。前立腺がんを診断さ

れた場合、転移がなければ、手術、放射線治療、薬物治療(ホルモン治療)、監視療法など、治療法の選択肢が幅広いのも特徴です。特に手術を選択された場合は、ロボット支援手術が、開腹手術や腹腔鏡手術に比べて、患者さんの負担が少なく合併症も少ない標準的手術とされています。

前立腺がん検診は、健康診断、人間ドック、かかりつけ医のところでもできます。早く見つかれば、生存率が高いがんですので、特に50歳以上の男性の方は、前立腺がん検診を受けられることをお勧めします。

前立腺がん検診は、健康診断、人間ドック、かかりつけ医のところでもできます。早く見つかれば、生存率が高いがんですので、特に50歳以上の男性の方は、前立腺がん検診を受けられることをお勧めします。

前立腺がん検診は、健康診断、人間ドック、かかりつけ医のところでもできます。早く見つかれば、生存率が高いがんですので、特に50歳以上の男性の方は、前立腺がん検診を受けられることをお勧めします。